

白井第三小学校区まちづくり協議会 第13回設立準備会 議事録

書記:大野 彰

日時 令和3年4月17日(土) 18:30~20:30
会場 富士センター大集会室
出席者 委員26名
支援チーム 6名 市民活動支援課 3名
司会 市民活動支援課 保科係長

島森会長挨拶:

本日は第13回準備委員会に出席頂き有難うございます。
いよいよ大詰めに入ってきています。本日は是非活発な討議をお願いします。

司会: 市民活動支援課の松岡課長と支援チームの川上リーダーは、本日第二小学校区のまちづくり協議会設立準備会の事務局会議に出席のため、遅れて参加するの了承願います。
最初に第14回設立準備会の日程を決めさせていただきます。

(出席者の都合を確認のうえで次の通りに決定)

日時: 令和3年5月22日(土) 午後3時30分~5時30分

内容: まちづくり計画の策定方法について及び規約検討

その後5時30分より規約検討委員会を役員と各ワーキンググループのリーダーで開催。

1. 第12回準備会の振り返りと今後について

第12回準備会の振り返りについては、参加者が少なく「地域交流」と「子育て福祉」のワーキンググループはまとめの会議はできたが、「担い手」と「防災」のワーキンググループについてはまとめができなかった。そのため4月4日(日)と10日(土)にまとめを行った。
規約検討委員会については前回の会議で了承された。

2. 本日の会議の進め方について

本日配布資料の「第13回設立準備会の流れ」に沿って進めていきたい。

最初に「防災」について全グループが発表し、その後それぞれが独自で行った分野の意見交換についての発表をする。その順番は次のとおり

- (1)「子育て支援・青少年の健全育成・福祉・健康づくり」
- (2)「地域の交流・活性化・地域環境」
- (3)「地域活動の参加者・担い手・環境」
- (4)「防犯・交通安全」

上記の順番でまず「防災」分野についての発表を行い、それが一巡すると次に同じ順番で「防災以外」の分野の発表を行う。そこでは各ワーキンググループが作成した各分野のまちづくりの計画について感想・意見・提案などを発表する。

全てのグループの発表が終わった後に、発表された各分野のまちづくり計画についての感想を

本日参加者全員の皆さんに、自分が審議していない部分のそして自分が参加していないグループの意見も頂きたい。

目標の意味や取り組み(事業)内容への質問は行わないこととする。

各ワーキンググループの皆さんが意見交換を行い、一生懸命考えた計画ですので、思いを尊重して感想等を伝えてください。

島森会長による本日の発表とまちづくり計画について:

過去 12 回に渡り真剣な討議をしていただきました。まちづくり協議会は現在皆さんが活動されている各種団体を協議会の重要な組織の一つとして組み込み、幅広く地域の課題又はすばらしいところを広く汲み上げその課題に向けて解決方法、またすばらしいところをいかに伸ばすかその方法を皆さん方と討議する組織だと考えている。本日皆さんが発表される各グループの内容は、この後正式なまちづくり協議会の活動の基礎となり指針となるものであると考えている。まちづくり協議会は 3 年間の計画であります。我々は行政組織のようなプロの集団ではありません。できること、そしてできないことの方が多いと思います。しかしながらそれにめげず一つの課題に対してホップ、ステップ、ジャンプと三段階に分けて綿密な計画をもって無理のない、風通しの良い組織の運営をしていかなければいけないと思っております。そのようなすばらしい組織の立上げのために皆さん方の一層の協力と本日の活発な意見・討議を期待するものであります。どうかよろしく申し上げます。

進行: 齊藤副会長

ワーキンググループの発表

(1)「子育て支援・青少年の健全育成・福祉・健康づくり」(防災分野)【福岡リーダー発表】

白井市は災害のないところですが、近くには地震の恐怖や台風の脅威があるのでそれらは討議の中でも中心の話題となった。評価については得点と意見を出し合い取り組み項目の順位は『評価のまとめ』の通りとなった。意見交換の中で出た主な意見として取組の 6 項目は過去に積み上げてきたものでこれをとっても大切なものとして採点を行った。

コロナ禍のもと、人を集めるのは難しいと思いつつも点数をつけた。

「(5)マップの作成」は大事なので 1 位をつけた。キーワードとしては「HUG」と「ご近助さん」が良いと思うという意見が出た。これは「ご近助さん」を非常に大切にしたいという意見でまとまった。

「まちづくり計画」を見ていただくと、《目標》については 5 つの項のキーワードがあがった。キーワードとしては皆さんが覚えやすい、響きがよいなどの視点で沢山の案が出た。「ご近助さん」には近所で助け合うということが大切というキーワードが含まれている。(案1)は「防災となり組で防災力アップ」、(案2)は「ご近助さん」で防災力アップ、(案3)は「防災啓発活動」、(案4)は「備えあつての防災まちづくり」、(案5)「自助と共助を学ぶ」となった。

《取り組み名》は「まちづくり計画」の《取り組み名》の通り。

『取り組み項目』の「(2)防災訓練の開催」、「(3)子ども向け防災教室の開催」、「(4)大人向け防災勉強会・教室の開催」についてはコロナ禍で人を集めるのは難しいため取り組み項目からはずしていいのではないかとの意見となり、取組事業としなかった。

最後に《**取り組み内容**》としてはそれぞれの事業の具体的な実施内容となる。その内容はそれぞれ「①白井第三小学校区のハザードマップを作成」、「①防災連合会の活動開始」、「①「HUG の実施」、②「啓発物資の配布」、③「定期的な講習会の実施」となっている。「子育て支援・青少年の健全育成・福祉・健康づくり」グループの発表は以上です。

(2)「地域の交流・活性化・地域環境」(防災分野)【岩崎リーダー発表】

初めに検討を行う前提条件として広い範囲で物事を考えるのではなく、私たちはこの地域に住んでいる。だから狭い範囲で考えるという意味で、この地域で起こりうる災害を想定し第三小学校区の独自性を踏まえ、まちづくり協議会ですべきこと、できることは何かを私たちのグループでは検討を行った。

「**評価のまとめ**」をご覧ください。それぞれの評価について得点と意見を出し合い、取り組み項目の順位はWith コロナでは1位が「(5)防災マップの作成」、2位は「(1)防災リーダー育成研修の開催」、平常時には1位と2位が逆になっている。以下「**評価のまとめ**」の通りです。意見交換の中で主な意見は「子どもがわかりやすいということは大人もわかるであろう」ということが絶えず考えられた。更に「研修会自体が地域交流につながっていくのではないか」。研修のあり方として「地域に合ったものが必要である」という意見であった。各論から全体的な防災として必要なものを行っている、相対的なものを知らない人が中にはおり、そして各論ばかりを追っていくと失敗につながるのではないか。そこをうまく考えながら進めていかなくてはならない。即ちこの交差点のときは絶対に右に曲がりなさい、それが災害防止の作戦なのです。しかしながらその時の災害で実際に右に曲がったら死んでしまったという場合もある。そのためそこは臨機応変な対応ができる地域住民にしていけないといけないのではないかという意見が出た。

続いて「**まちづくり計画書**」をご覧ください。

《**目標**》は地域の観点から(案1)「地域の絆守ろう命」、(案2)「守ろう命と地域の絆」とし、この2案は一本化せず全体会の中で他のワーキンググループの結果を踏まえて検討して頂くことにした。《**取り組み名**》については表の通り。

《**取り組み内容**》については(案1)及び(案2)を考え、マップの完成に関するもの、リーダー育成として①「大人向け防災勉強会の開催」、②「子ども向け防災教室の開催」とかかかれているが、子どもが分かる内容であれば大人もわかるであろうということで①②は同じレベルのものを開催して欲しいという結果になった。

(3)「地域活動の参加者・担い手・環境」(防災分野)【大野リーダー発表】

本グループでは「防災」と「環境」と「地域活動の参加者・担い手」の3つのテーマについて、キーワードとなる「子ども」を念頭において意見交換をすすめ「まちづくり計画」に集約しました。

「**評価のまとめ**」をご覧ください。取り組み項目として(1)から(6)の項目があるが、「with コロナの優先順位」「平常時の優先順位」共に第1位は(5)「地域防災マップの作成」、第2位は「(1)防災リーダー育成研修の開催」、第3位は「防災組織の充実」でした。第4位は「with コロナ」では(2)「防災訓練の開催」、(3)「子ども向け防災教室の開催」、(4)大人向け防災勉強会・教室の開催」が同列でした。

続いて「**まちづくり計画**」をご覧ください。

《**目標**》については「子どもをつなげることで全体の防災意識を高める」とした。将来を支える地域の子どもたちをつなげることにより、災害発生時に家族及び地域住民ひとりひとりの安全を確保するための防災意識を平時より高めていくことが必要であるからです。即ち子どもが防災とは何かを理解することが

必要で、子どもから大人へしっかりと伝えられるようにすることが必要であるからです。子どもをつなげていくことで全体の防災意識を築いていくのです。

《**取り組み名**》の第1は「地域防災マップの作成」で、その《**取り組み内容**》として①「防災リーダーが中心となりマップを作成する」そして②「完成したら子どもたちに自宅周辺の防災地図を描いてもらう」これには子供の目線で見た危険個所を記入する。

《**取り組み名**》の第2は「防災リーダーの育成」です。地域の特性があるからこそそれらを纏めるリーダーが必要となる。防災リーダーを増やし、皆が集まり啓発できる組織ができれば完成です。

《**取り組み内容**》としては①「防災リーダー研修への参加」そして②「防災リーダーのマニュアル作成」です。

《**取り組み名**》の第3は「防災組織の充実」です。取り組み項目の(2)「防災訓練の開催」、(3)「子ども向け防災教室の開催」、(4)「大人向け防災勉強会・教室の開催」については取り組み事業としては入れませんでした。

これについてはコロナ禍で3年の計画として考えるには難しく、学校との関係により不明確な状況があることです。その代わりに防災マップの作成に子どもたちを巻き込むことで防災意識を高めるような活動ができればと考えます。

「地域活動参加・担い手・環境グループ」の発表は以上です。

(4)「防犯・交通安全」(防災分野)【橋本リーダー発表】

今回のメンバーは昨年まで6名でスタートをしましたが、今年に入り2名(舟野副リーダー、古澤委員)の都合がわるくなり4名で行っている。

本グループでは担当するすべての分野で人、人材が最も重要であり、初めに取り組むべきものであろうという共通認識を持ち意見交換を行った。人を育て組織を作り情報を集め発信し、様々な訓練を行って活動を充実させる、即ち人、組織、訓練、充実という流れでやろうということで意見交換を行った。

「**評価のまとめ**」について「with コロナ」では取り組み項目の(2)、(3)、(4)はやりにくいということで外した。

「**まちづくり計画書**」の《**目標**》については第三小学校区の地域に合った目標にすることが大切と考え、(案1)が「地域の生命・財産を守るため、住民と公共が連携する」、(案2)が「災害時の被害を最小限化する『減災』を目指す」を案として出した。

《**取り組み名**》は「**評価のまとめ**」の「平常時の優先順位」をもとに設定したが、(1)「防災リーダーの選抜」は「取り組み項目」の(1)「防災リーダー育成研修の開催」を取り組み内容の一つとして名称変更を行った。その1番目が「防災リーダーの選抜」、2番目が「防災組織の充実」、3番目が「地域防災マップの作成」で設定した。(4番)「防災訓練の開催」、(5番)「大人向け防災勉強会・教室の開催」、(6番)「子ども向け防災教室の開催」については新型コロナウイルス感染の状況により開催が難しいとの意見があり「**評価のまとめ**」の「with コロナの優先順位」では順位をつけなかった。大切な事業であることに変わりはないので「まちづくり計画」には記載をした。

《**取り組み内容**》では《**取り組み名**》の(1)「防災リーダーの選抜」として①「現在活動している人のリストアップ」、②「現在活動している人への声掛け」、③「防災リーダーの募集」、④「防災リーダー育成研修の開催」を事業の内容として取り上げた。

《**取り組み名**》ではその他(2)から(6)までの取り組みがありそれぞれの内容は《**取り組み内容**》の通り。

「防災マップ」の時に②「情報収集の実施」で(A)自治会で所有しているもの、(B)井戸などの場所については個人で所有されているものがあるのでそういう情報を集めたり、マップを作るなどをしていく必要があるためここに記載した。

以上で「防犯・交通安全ワーキンググループ」の発表を終わります。

各グループのテーマごとの主題に基く発表

(1)「子育て支援・青少年の健全育成・福祉・健康づくり」ワーキンググループ

「子育て支援・青少年の育成」【福岡リーダー発表】

「評価のまとめ」として《取り組み項目》の各得点はまとめの通り。

意見交換の中で出た主な意見は(1)「子どもの学び・参加の機会づくり」として行事の企画段階から子どもが参加する方が良いという意見が出された。これは与えるのではなく作りだすという大切さを表したものである。(4)「子育て世代の参加・交流の場づくり」については行事の準備に参加して欲しいという意見があった。(3)「子ども運動クラブの発足」については高齢者と共にできる運動や、運動が得意でない子どもも参加できる軽い運動がよいという意見が出された。グラウンドゴルフや梨トレ体操のようなものを広めていくのも一つである。(5)「子ども学習支援の居場所づくり」については子ども同士で教え合う塾のようなものがあるとよいという意見がだされた。(2)「子どもが遊べるイベントの充実」や(3)「子ども運動クラブの発足」についてはリモートでやるなどの工夫が必要との意見があり、この時期「密」にならないためである。

「まちづくり計画」では《目標》は「ともに繋がり子どもが主役になれるまち」とした。その理由は地域の大人が子どものためにイベントをやるだけではなく、大人がサポートして子どもたちがやりたいことをやる自主性を育てるようなまちになってほしいとの思いでこの目標にした。

《取り組み名》については表の通り。《取り組み項目》の(3)「子ども運動クラブの発足」と(5)「子ども学習支援の居場所づくり」について、運動クラブや学習支援は子どもの居場所づくりの一環ではないかとの意見が出された。「子どもの居場所づくり」としては一本化し取り組むべき内容として掲載した。また「子どもの学び・参加の機会づくり」としては①「子どもが遊べるイベントの充実」、②「子ども仕事体験の開催」がその《取り組み内容》ではないかとの意見が出された。最後に《取り組み内容》ですが、それぞれの事業の具体的な実施内容となる。それは①学習支援として、子どもたちが互いに教え合う居場所づくり、②富士センターの開館時間延長の検討(とりわけ中高生の居場所づくり)、③運動クラブ(体力づくり、気軽に、ゆるやかな苦手な子が参加できるような方法)の検討です。《取り組み事業》の2「子どもの学び・参加の機会づくり」の《取り組み内容》としては①「子供が遊べるイベントの充実」、②「子ども仕事体験の開催」この中にはA)「IT講座」(小学校ではタブレットが配られている)及びB)専門講座(得意な大人に教えてもらう)、《取り組み事業》の3「子育て世代の参加・交流の場作り」の《取り組み内容》としては①「父親同士の交流の場」が欲しい。②「団体同士の交流の場」(地区にある活動グループの横のつながり)である。

以上が「子育て支援・青少年の育成ワーキンググループ」の発表です。

「福祉・健康づくり」【阿部サブリーダー発表】

評価の順位については「評価のまとめ」の通り。意見交換の中で出た主な意見は「取り組み項目」の中の

(1)「高齢者の生活状況の把握」をはじめに行わないといけない。(2)「高齢者のサロンの充実」は高齢者の生きがいや楽しみ、心や体の健康維持にとってだいじである。(3)ラジオ体操などは地域を細か

く分けてやる。(4)高齢者の生活状況の把握や日常生活の見守り・支援体制作りは個人情報も絡むため扱いに注意する。(5)高齢者の生活状況の把握や体操による健康づくりの推進、高齢者のサロンに参加することは生活の充実につながる。等であった。

「まちづくり計画」の《目標》は「みんなで助け合い元気で暮らそう」にした。その理由としては「助け合い元気で暮らそう」というキーワードが出され、キーワード同士をつなげたイメージとなる。お互いに助け合うことで元気に暮らせるのではないかなどの意見が出た。《取り組み名》については表の通りで、「体操による健康づくりの推進」と「高齢者のサロンの充実」については心身の健康づくりにとって体操や高齢者サロンの充実が大切となってくるため統一させて良いのではないかなどの意見が出され「健康づくりの推進」として一本化し《取り組み事業》の内容に取り組むべき内容として掲載した。《取り組み事業》①「高齢者の生活状況の把握」の《取り組み内容》は①「アンケートの実施」を行う。《取り組み事業》②「日常生活の見守り・支援体制づくり」の《取り組み内容》は①「買い物・移送支援」(有償)、②「ゴミ捨て支援」(有償)、これについては地区社協が本年3月から地域生活支援「ちょいボラ活動」事業を立上げ、ペアで訪問し高齢者のゴミを預かり捨てるという事業を始めた。③「途中で休めるベンチ設置の検討」(子どもたちに作るのを手伝ってもらおう)、④「子どもを講師としたスマートフォンの使い方講習会」の開催。《取り組み事業》③「体操による健康づくりの推進」の《取り組み内容》は①「みんなで体操」(なしトレ、しろい楽トレ体操、ウォーキング等)の実施、そして「ラジオ体操を各地区でやる」、「地域ごとのサロンの開催」を行うことで話が終わった。以上が「福祉・健康づくりワーキンググループ」の発表です。

(2)「地域の交流・活性化・地域環境」ワーキンググループ

「地域の交流・活性化」【岩崎リーダー発表】

「評価のまとめ」の「with コロナの優先順位」では1位が(7)「挨拶の啓発活動の実施」、2位が「世代間交流の推進」、「平常時」はその逆の結果となった。《取り組み項目》の(1)で「空き家」という言葉が出ているが、これについても一つの課題である「地域環境」でも「空き家」がでてくる。その意味が少し違うので混同しないようにしてほしい。「地域交流」での「空き家」は今ある「空き家」の現状をみてそこをどのように使えば地域交流につながるのかという「空き家」である。具体的には出てこないが地域交流として一番簡単なものは「挨拶」である。これはいつもやっているため「挨拶をしましょう」では何も変わらない。「挨拶」が一番大切であるが、どういうふうに行っていくかを皆さんで考えて頂きたい。以前、全国の学校で「開かれた学校」が推奨されていた。門を開けて誰でも学校の中に入ってこられる「開かれた学校」はよい言葉ではあるがそのために犯罪が行われ、今は閉じている。このギャップには学校としてつらいものがある。「挨拶」は大切であるがそのようなことも考えていく必要がある。

「まちづくり計画」での《目標》は(案1)「地域の交流は挨拶から」、(案2)「交流のはじまりは挨拶から」、(案3)「挨拶は(住み続けたいまち)への第一歩」となった。《取り組み事業名》は1.「挨拶の啓発活動の実施」でその《取り組み内容》は①「挨拶の啓発活動の実施」で具体的にはチラシ等があるのではないかとぐらいで深くは追及せず。《取り組み事業名》2.「世代間交流の推進」の具体的《取り組み内容》としては①～⑤が出てきた。但し⑤の「お見合いイベントの開催」は具体的イメージがわからず「with コロナ」「平常時」共に7位となった。

以上が「地域交流・活性化」です。

「地域環境」【岩崎リーダー発表】

「評価のまとめ」の《地域課題キーワード》として①「交通(バス・鉄道)」、②「道路・通学路」、③「遠い」、④「公園」、⑤「空き家」、⑥「施設」があるが、⑤「空き家」以外は私たちの力では何ともできないという結果になり、「空き家」なら何かができるのかということで話が進んだ。従って評価の《取り組み項目》は(1)「空き家の現状把握と活用の検討」のみとなった。

「まちづくり計画」を見ると《目標》は「みんなで考える明るいコミュニティ」が一つで、《取り組み名》は「空き家の現状把握はできるということで「空き家の現状把握と活用の検討」となった。先程は「空き家」をどう使っていくかという問題であったが、ここではどうすれば「空き家」を減らすことができるかという違う観点の「空き家」です。《取り組み内容》としては、①「現状を把握するための調査」を行い、②「活用の検討」をすることです。これであれば私たちにもできるのではないかと。これを最初の「防災マップ」とコラボしたり、マップ上にのせたりすることによって不法投棄や防犯上の問題を解決していくのではないかとということになった。「地域環境」は以上です。

(3)「地域活動の参加者・担い手・環境」ワーキンググループ

「環境」【大野リーダー発表】

「評価のまとめ」では《取り組み項目》として(1)～(4)までであるが、「with コロナの優先順位」、「平常時の優先順位」共に1位は(1)「ゴミ捨てのマナー啓発活動の実施」と(4)「環境組織の創設による活動推進」で、2位が(2)「ゴミゼロ運動の充実」と(3)「草刈等による環境づくり」でした。

「まちづくり計画」では防災と同様《目標》として「子どもと一緒に全体の環境意識を高める」とした。子どもに対する環境学習の実施を組織として行い、一緒にやることにより地域環境への意識を高めていく。そして子どもと一緒にやることにより大人のマナーの向上をも目指す。《取り組み名》としては「環境組織の創設による活動促進」です。現在各自治会には生活環境指導員がおかれているが、横のつながりは無い。各自治会によって回覧や張り紙で注意喚起をしているが守られていないケースもあり、もっと強く言える組織を設置すべきとの要望がある。ゴミによる近隣トラブルを防ぐためにも組織としてやっていければ改善が期待されるため組織による継続的な啓発が必要である。その下にくる《取り組み内容》としては①「ゴミ捨てマナー啓発活動の実施」、②「ゴミゼロ運動の充実」そして③「草刈等による環境づくり」です。これらは学校との協力・連携についても検討が必要。①「ゴミ捨てマナー啓発活動の実施」については各自治会でゴミステーションが設置され、市の集荷曜日に合わせて生ごみ、資源ゴミが出されており、なおかつ当番制で集荷後の清掃も行われている。しかしその出し方にはまだ問題が残っている、また犬の糞についてのマナーがまだ徹底されていないケースが多くみられ、今後もゴミやペットに関しての様々な課題が出てくるのが考えられる。②「ゴミゼロ運動の充実」については以前には年に2回、市の音頭で自治会毎に住民が集まり自治会内のゴミ拾いや草刈が行われてきた。③「草刈等による環境づくり」については市の高齢者クラブで年1回の社会奉仕としてゴミ拾いや公園の草刈りが行われておりこれを更に広げていく必要がある。

「地域活動の参加者・担い手」【大野リーダー発表】

「評価のまとめ」の《取り組み項目》には(1)から(5)までであるが「with コロナの優先順位」、「平常時の優先順位」共に第1位は(1)の「地域人材の登録活用制度の創設」と(3)の「青年部の創設」。第2位は(2)の「イベント情報の集約発信」と(5)の「若い世代を呼び込む方策の検討」。そして第3位が「地域活

動へのインセンティブの導入」です。

続いて「まちづくり計画」の《目標》は「世代を超えた地域の担い手づくり～集まれ地域の担い手～」です。《取り組み名》は「1. 地域活性委員会(仮)の設立」です。その《取り組み内容》としては①「地域人材の登録制度の創設」(自治会を超えた第三小学校区地区の人材)と②「イベント情報の集約発信(SNS、紙媒体)です。

もう一つの《取り組み名》は「若い世代を呼び込む方策の検討・実施」です。その《取り組み内容》は①「地域活動へのインセンティブ導入の検討(やり方の情報収集)」です。若い世代を呼び込む方策の検討として、導入のための情報の収集と具体的なやり方を考えることが第一であり、導入までは難しいと思われるのでインセンティブの取り組み事業となっています。そしてインセンティブの導入を3年間のまちづくり計画に入れるのは難しいため導入の検討となった。

「地域活動の参加者・担い手」で抱えている課題は他の取り組みと同様世代をどうつなぐか、そしてその活動をどう周知し認知してもらうかということです。そこを認識したうえで上記の内容となった。

「地域活動参加者・担い手・環境」グループ発表は以上です。

(4)「防犯・交通安全」ワーキンググループ

「防犯」【橋本リーダー発表】

私たちのワーキンググループでは担当するすべての分野で人(人材)が重要であると「防災」においても話したが、「防犯・交通安全」でも同じ考えのもと人、組織、情報、訓練、充実という流れを意識しながら意見交換を行った。

「評価のまとめ」と意見については報告書の3, 4頁の通り。《取り組み項目》の(4)「子ども110番の拡充」については市のPTA連絡協議会が主体であるので「まちづくり協議会」が直接取り組む事業ではないが、良い取り組みでもあり知らない人も多いので「まちづくり協議会」の事業としては調整・連携が必要であるとの意見があった。この「子ども110番の拡充」の取り組みについては今回のグループワークでの話し合いを踏まえて第三小学校の方では既に準備をされており、先生より児童に「子ども110番」の制度を周知することや、PTAから保護者に対して制度を周知することを検討して頂いている。

(2)「防犯人材の充実」については「防災」と同様、今活動している人を大切にするべきであるとの考えのもと地域内の防犯指導員の充実・連携が必要であるとの意見であった。また「防犯人材の充実」については何をすればよいかわからないとの意見もあり今後周知等をする必要がある。

(3)「防犯情報の共有・発信」については市の安心・安全メールがあるが、そこからの発信手段がない。従って防犯委員にまで情報は入るがその先の一般家庭への伝達の仕方が難しい。約1年前、防犯委員のメンバーを一堂に会し連絡の場を作ろうとの話はできたが、コロナ禍の環境で集まりにくいため留まっているが基本的にはその流れが必要である。「防犯」分野の取り組みについては地域、PTAなどさまざまな団体に横串をさすような連携が必要であるとの意見もあった。

「まちづくり計画」の《目標》については第三小学校区の地域に合った目標とすることが大事である。

そのため、(案1)「犯罪を未然に防ぐ～共有・連携・そして信頼へ～、(案2)「個々の犯罪抑止意識を高め、思いやりの心を育てる」とした。

「取り組み名」としては、「防犯人材の充実と防犯情報の共有」について一体として考える必要があるため2「防犯情報の発信と防犯人材の充実」に変更した。3「地域防犯マップの作成」についてはその作

り方に難しいところがある。「防犯マップ」を作れば犯罪を犯す人もそれを見るところの問題があるので上手に作る必要があるとの意見があった。1「防犯パトロールの強化」の《取り組み内容》について①「現在実施している活動の充実」としてA)「夜のパトロール実施」、B)「通学・帰宅の子どもの見守り」、C)「青パトの実施(改善)」は現在も行っているが更に充実していく。②「昼のパトロールの実施」は「ながら」パトロールを推進する。③「第三小学校区独自のパトロール体制の構築」が必要。その他は各《取り組み名》と《取り組み内容》を参照。

「交通安全」【橋本リーダー発表】

「評価のまとめ」では《取り組み項目》の(1)「交通危険場所の集約・発信」が1位となっており具体的な危険個所の話などが出た。優先順位2位の(5)「交通安全リーダーの養成」については具体的に市から委嘱されている交通安全指導員の人材不足、若い人のなり手がいないことが課題として挙げられた。現在も約7人の欠員があるとのこと。「防犯」と違い「交通安全」のリーダーには交通整理のスキルなども必要になるためリーダー育成にはスキルをつけてもらうことも重要との意見があった。「まちづくり協議会」が本格的に活動を開始し様々な団体と協力・連携する中で人材の底上げに繋がるよう期待したいと思う。主な意見の中で「関東一校のところの信号のない交差点が危険である」との意見の中、舟野委員からの提案で第三小学校の下校時に駐車場側から帰る子どもたちが古川園のところでも左右に分かれるが、左側から帰る子どもたちの通り方が歩道側に行かず古川園側の細い通路を歩いており危険であった。そのため歩道側を歩いた方が良いのではという会話があった。早速教頭先生がそれを子どもたちに言ってもらい翌日より即、歩道側を歩くようになった。こういう場を通じてすぐに改善がなされたということは大変有難い。そういう場を通じたことが改善につながったよい例であるので報告をしておきたい。

「まちづくり計画」の目標は(案1)が「解決に向けて、まちづくり協議会で危険な場所の解消に取り組む」、(案2)が「危険な場所を皆で共有する」、(案3)が「子どもと高齢者をみんなで見守る」とした。《取り組み内容》としては6項目あったが①「中学生による子ども交通安全講座の開催」、④「自転車免許証の発行」は《取り組み名》の4「交通安全教室の開催」の項目に統一した。従って4項目の《取り組み名》が記載されている。その他の《取り組み内容》については「まちづくり計画」の内容の通り。最後に私たちの富士地区第三小学校区は大山口や桜台、千葉ニュータウン等の地域のように新たに作られた街で作られた道がある、そういう地域の交通安全と、富士地区のように元々地元があり、道が無かったところに道を作り、細い道の成り立ちでできている地域の場合とでは、交通安全に対する考え方が違う。従ってそういう地域に住み交通安全を守る身としては広い道のことを意識せず細い道なりの作られた道、我々が作っていく道を意識しながら改善していきたい。即ちまちを育てていくという考えでやっていきたいとの意見があった。

発表は以上です。

保科市民活動支援課係長:

本日は、富士東自治会より新年度の佐々木新会長の参加を頂いている。そして白井ロジュマン自治会の山本副会長はワーキンググループの途中から正式にまちづくり協議会に参加頂いているため紹介。

発表された各分野のまちづくり計画についての感想発表(全参加委員)

(1)松田祐介委員(公募委員)

本日は各グループでの興味があるということで良い意見が多かった。防災については地域マップの作成の順位が高いとの印象を受けた。地域の担い手と交流活性化とでは似たところがあり、その意見を纏めれば何か良いものができる気がした。

(2)山崎佳紀委員(復四自治会)

地域活動の担い手の中で話をしていたが、他のグループの方々の活動と少し考え方を替えれば重なっている部分もあるのでうまくまとまるというのを感じた。ワーキンググループの中だけで話しているのではなく、もう少し全体の中で横のつながりを作っていければ全体の流れが変わっていくのではないかと感じた。

(3)龍野紀子委員(公募委員)

全ての発表を通して互いに少しリンクをしているというのが印象でした。最後の橋本委員の発表に合ったまちを育てていく意識はすごく大事であると思った。共通の問題点としては人材が不足していることであると感じた。

(4)岩崎巖委員(富士東自治会)

全体的に地域の輪がしっかりあればどの項目もうまく行くのか、人を思いやる気持ちを大切にすればもっと良い地域が育っていくのかと考えると、地域の絆というワードが自分としても欠かせないと思っている。

(5)佐々木新会長委員(富士東自治会)

事前に資料を頂いて目を通していただければもっと理解ができたと思うが、初めてみて配布された文書通りでない表現をされると理解が難しかった。

(6)鈴木順子委員(白井富士商店会)

地域が違うということが一番の問題で、主婦として近所の付き合いをしていると隣の人への気遣いの大切さを感じている。全体として地域のことが一番感じられた。

(7)阿部佳代子委員(オージーコートヴィレッジ自治会)

今回皆さんの発表を聞き、リーダーの育成や人との関りで人が一番重要であると感じた。今の子どもたちが大人になってどのように地域との関りを持たせていくかが大事であると思った。また皆さんが発表されていた通り、それぞれのワーキンググループで少しずつ重なっている内容があるので横の連携をしながらまとめていくとよいと思う。防災について、大人はその意識があると思われるが子どもの時から防災の意識を身に着けていけるような活動があるといいなと思った。

(8)湯本わか枝委員(高齢者クラブ東愛会)

各団体の横の繋がりがあればいろいろなことが纏まるのではないかと思いますので、横の繋がりが必要。交通安全の指導員をやっているので各自治会からもっと指導員が出ていただければよいと思う。

(9)落合八重子委員(高齢者クラブ富士新生会)

防災については皆さんの意見はその順位が同じようであった。他のグループの話の本日初めて聞いたが空家の二種類の違う意味についての発表があった。今非常に多いのでこれは何とかできそうな気がした。高齢者と子どもたちの交流を持ちたいなあとと思っている。

(10)大郷紀久男委員(高齢者クラブシルバー富士)

各部門部門で共通しているのは人材の育成と人材の発掘ではないかと前から思っている。どの部門においても本当に良い話し合いであるので、このまま進んでいけばすばらしいまちづくりになると思う。それにか

かわる人材をどのように発掘し、育成していくかについてが一番の問題ではないかと思われる。そこを逆に教えて欲しい。

(11)福岡正勝委員(白井ふじ保育園)

私たちが担当した子育て支援や青少年の育成だけではなく、地域交流の活性化や地域環境まで全てがリンクしてくるのだと思った。富士地区は行事が多いがコロナ禍ですべてができない状況になっている。保育園の親御さんたちに行事に参加していける仕組みを作っていこうという思いを強く感じた。直近ではこいのぼりの柱建てが5月1日に予定されているが、できるだけ手伝いをしていただけるようなアナウンスをしたいと思っている。

(12)川越美加子委員(白井第三小学校 PTA)

PTA 会長として思うことは組織に参加してもらうことがすごく難しい。敷居が高い、堅苦しい、面倒くさいというイメージがどうしてもあるのかなあとと思われる。今後はもう少しみんなが参加しやすいPTAにしたいという思いがある。地域の組織もそうであるが、もっとみんなが気軽に参加でき、楽しいというイメージをもっと持たせられたらと思っている。募集の仕方も堅苦しい文章であったりするので、もう少し柔らかい文章でできたらと思っている。

(13)齋藤一夫委員(西部地区民生委員児童委員連絡協議会)

防犯・交通安全の中で防災マップを各グループで高い順にあげているが、生活使途に注目した防災マップや具体的にどのように作っていくのかという発表には確かにそうであると思い感心させられた。同じ防災でリーダーの育成ではなく選抜という言葉にかえたというのはよいとの感想です。地域環境担い手の中で環境について子どもを主体にして大人のマナーを向上させるというアイデアも非常に良いと感心させられた。

(14)齋藤勇委員(自治連合会第三小学校区支部)

各グループの発表は全て共通項があり、ないグループは無いと本日確信した。地域交流の活性化・地域環境

のワーキンググループと地域活動担い手のワーキンググループの違いを明確に示すことをできる方はいないと思う。これは一つの環境、例えば生活環境であり、自然環境でありを押しなべてやってしまうと防災そして防犯にすべて繋がる。それと担い手に関しては、それを整えるという環境という考え方もできる。このグループを淘汰するのではなく整理をしましょう。そうすれば「まちづくり協議会」ができたときに必ずそれが核になる。

(15)石田里美委員(栄区)

まちづくり、地域づくりという観点から考えると、近所という言葉もでていますがすべて思いやり、声掛け、挨拶を実施することができていけばすべての項目に当てはまりつなげていくことができるのではないかとと思われる。声掛けにより顔つなぎができると思われるので、それをまちづくりに繋げていければよいと思う。

(16)森岡義人委員(富士西自治会)

地域交流活性化のグループで討議を行ってきたが、防災・防犯に関しては共通課題ということで他のグループと似たような内容であると思った。ただ一つ気になったのは子ども向けの防災訓練そのものを分かりやすくすればお互いが分かりやすいと岩崎リーダーが説明されたが、地域活動参加者・担い手グループで意見が出た子ども向け防災教室の開催は学校との関係で不明確とのことについては少し気になった。これはやり方によってはどうにでもなると思っており、大した問題ではない。交通安全から

出た自転車免許証はすごく良いと思ったので推進の方向で行ってほしい。これをやることによって子どもの自覚も出てくると思われる。

(17) 島森利美委員(白井第三小学校区地区社会福祉協議会)

皆さんの発表を聞いており正式のまちづくり協議会の指針になりうる立派な発表であったと思う。私はこの準備会を立ち上げようと言ったときに何を今更というふうに思っていた。第三小学校区の今までの活動で十分各種団体との連携がとれているとの感想を持っていたが、本日の発表を聞いてやはりこれだけの問題点がでてきたので、益々各種団体の横の繋がりが大切であることを実感した。地域活動の担い手のところで我々第三小学校区で盛んなイベントをやっていたが、集約的発信にイベント情報の効率的な発信が大事であるとおつくづく感じていた。一つお願いがあり、先程福岡委員から話が出たが、イベントとしての「こいのぼり祭り」はやらないが、イベント無しで鯉のぼりを上げようとの計画をしているので是非協力をお願いしたい。5月1日に鯉のぼりたてを計画しているので皆さんのご支援が頂けたら助かるのでよろしくお願いしたい。

(18) 小田桐繁俊委員(南敬高齢者クラブ)

リーダーの皆さんの発表を聞きさすがはリーダーであると思ひ、ためになる発表であった。自分としては世代間交流がいかに大切であるかを一番感じた。コロナ禍でこれだけのワーキンググループを実施したことに感動している。これからもお互いに良い意見を出しながら携わっていかれたらと思っている。

(19) 山本委員(白井ロジュマン自治会)

地域活動には今まで無縁であったが、各発表を聞きとても大事なことでと理解した。項目が多いため本当にできるのかと思った。人材やリーダーというワードが各グループからも出てきたが、現在地域活動をされている方々は同じ人又は同じような人がされていると思うが、各セクションのリーダーや人材を増やさなければならない。それをしないといろいろな項目が実現できないのではないかと。新しい人をどのようにこちらに引き込んでいくかが重要であると思った。話し合いだけではなくそれらが是非実現できれば良いと思った。

(20) 大友先生(白井第三小学校)

私が所属していた防犯・交通安全グループ以外の3つのグループの内容について、子どもを育てるという視点からの感想ですが、「福祉・健康づくりグループ」の「まちづくり計画」の《取り組み内容》に④「子どもを講師としたスマートフォンの使い方講習会」がありますが、もしこれが実現できれば講師となった子どもたちの伝える力やプレゼンテーション能力が育つのではないかと考えた。二つ目は「地域活動の参加者・担い手グループ」の意見の中で「中高生及び大学生の世代が参加でき、世代が繋がる地域活動」そして「一番肝心なところはその壁をどのように壊すか」が出されている。今の世の中は様々な魅力的なものそして誘惑が沢山あるので、それに勝るものを作っていくのがキーになるのかと思った。最後に「地域の交流・活性化グループ」で挨拶についての意見があったが、私の体験談として10年程前に自転車で日本全国を回った。その際鹿児島を回った時にすれ違う中学生たちが必ず挨拶をしてくれた。その子たちがなぜそのように挨拶ができるのかと思ひある子どもたちを引き留めて聞いてみた。するとまず答えが返ってこなかった。再度聞くと不思議そうな顔をして「でもそうやってきたから」という返答であった。その時に私はこのように地域の色がでるのだなあと思った。小さな頃からそのような地域で育てられると全く知らない人たちに対しても普通に挨拶ができる子どもたちが育つ。そういう体験が強く

心に残っている。

(21) 橋本力委員 (防犯指導員)

私が今日発表した中で人、人材というところからスタートするという話をした。どこのジャンルであろうとも基本は人からスタートであると思う。要は人をどのように見つけてきて、その人たちにどのように繋いでいくべきか。その部分は永遠の課題であると思う。私は今年 77 歳になるがその年代ばかりがいても、若い人が入ってもらえなければ次に繋がらない。その若い人達にどのように興味を持ってもらい、まちづくりをやってもらおうかというところに踏み込んでいくこともテーマとして入れていかなければならないということを感じた。

(22) 大野彰委員 (白井第三小学校区防災連合準備会)

グループの発表の内容が項目ごとに異なっている、基本的には多くの共通点があることを本日の発表を聞き感じた。全体として地域の内情がクローズアップされてきているのではないかとと思われる。これからはマクロ的、ミクロ的の両面から整理していけば今後の行動の指針になってくるのではないかと。

(23) 富沢賢司委員 (富士センター運営協議会)

今回皆さんが今までやってきたことを集約したものは非常に内容の濃いものとなっている。これを大切にしていちまちまちで課題をピックアップしながら一つ一つをまとめていければうれしいと思う。その中で共通するもの、重複するものもけっこうあるが、それはこれからの協議会の組織づくりの中で皆さんと一緒に優先順位をつけながら新体制の組織作りをやっていければうれしい。人材は重要です。人材作りをどこが、誰がやるかについては各自治会、区の自治会長、区長が一番人材を知ることができる立場にいます。今後、各自治会を重視した活動の中で力を貸して頂くしかないと思われるので、これからも継続した形の自治会運営をやって頂き、まちづくりに参加して頂くことで多くの人材の確保ができると思われる。取り組みの中で富士センターの開館の延長という意見があったが、それについては富士センター運営協議会として検討させて頂く。「居場所づくり」については現在富士センターでも計画をしており、実現できれば良いと思っている。「専門講座」についても子どもたちに勉強をさせようと富士センターで計画をしている。こういうことを含め皆さんで話し合ったものを一つ一つ実現していきたいので協力をお願いしたい。

(24) 佐山零委員 (青少年相談員連絡協議会)

発表を聞いていて共通する部分が沢山あると感じました。その中でも人材というものが非常に重要なものでマンパワーが絶対的に必要になってくると思った。「地域活動」のところインセンティブという意見があったが、何かをやる場合には、自分の時間が無くなったり面倒くさかったり、一人で興味はあるが一人で不安等の理由で出てこれない人がいると思われるので、参加する動機付けとしてはよい取り組みではないかと思った。「防犯」での「ながらパトロール」については活動自体が大変そうであるというイメージを下げる効果があり長く続けられるものが増えればよいと感じた。

(25) 阿部峯一委員 (西部地区民生委員児童委員連絡協議会)

ただ一言、老若男女を問わず世代間交流のスタートは挨拶から始まる。従って挨拶の重要性を大事にしたいと思う。

(26) 井川芳江委員 (白井第三小学校区地区社会福祉協議会)

防災リーダーの選抜については、防災リーダーのマニュアル化を図り誰でもが防災リーダーになれるというようにしないと、いざという時に役に立たないのではないかと感じた。地域の空き家をどうするかにつ

いて、現状把握と活用の検討ということであるが、一つは引きこもりの人たちが集まれるフリースペースにしてほしい気持ちがある。それと連絡者がいなくて苦勞している空き家等の放棄をお願いし市の条例を変え、市がその空き家を解体して有料の駐車場として利益を上げてほしい。犬の糞の問題は、小中学生からこの問題がどのように影響しているかを学校で指導して頂き、それが大人になるまで頭の中にしみこまれるように指導をお願いしたい。

司会 : 全ての皆さんに感想・意見を出して頂きました。ワーキンググループの会議を何回も重ね、みなさんが意見をまとめてきたものを、他のグループがどのような意見をまとめてきたかが分かり、みなさんたちで作っているまちづくり計画の雰囲気はすごく感じられたのではないかと思います。本日の意見は事務局でまとめ、今のまちづくり計画との整合性を確認し、それらを反映させて次回の会議の時に素案として皆さんに送れば良いと考えている。
本日の会議はこれで終了させていただく。

以上